2 ジャワガムラン ——創作公演の基本知識と事例紹介

ジャワガムランは，インドネシア・中部ジャワの宮廷で発達した，千年余りの歴史を持つ伝統音楽です。使用される楽器，音楽，そして理論も西洋と異なる点が多く，学び始めるとしばしば驚かされます。基になる考え方や価値観が西洋と異なり，「当たり前」が違うわけですから，ガムランを使用する作曲や，ガムランの楽器を使用して創作作品の公演を企画する際には，留意すべきことがあります。

ここでは，インドネシアの伝統音楽であるジャワガムランが世界中で愛好され演奏されている背景と，ジャワガムランの概要，ガムランの演奏のしくみが創作事情に関わっていること，そして創作の事例と上演に際して留意する点などをご紹介していきたいと思います。

1 日本でも身近になったガムラン

ジャワガムランは，金属製の打楽器群を中心とした大編成のアンサンブルです。特に音色が良いとされる青銅製の楽器はひとつひとつに重量があります。また王宮で大切な儀式を行う大広間に据え置く楽器であることから，木製の台に施された彫刻など装飾も立派で，扱いに気を遣います。このような大掛かりなものが世界に広まった背景には，まず 1889 年フランス・パリ万博で初めて西洋に紹介されたジャワガムランが，人々から大いに称賛を得られたこと，特にドビュッシー，ラヴェルなどの作曲家に多大な影響を与え，近代西洋音楽が大きく方向転換したきっかけになったことがあります。音楽理論が研究されていくと，更に興味深いことが明らかになっていきます。各パートの楽譜もスコアもなく，楽器ごとの演奏法が互いに深く関わり合って，音による暗号のような合図を出し合う演奏のしくみは，コミュニケーションそのもの。何ともユニークなのです。世界中の教育機関がジャワガムランを取り上げ，たくさんの楽器が海を渡って広まっていきました。愛好者も増え，ガムランを使った創作も行われるようになりました。

日本では 1970 年代から，アメリカに倣って大学でのガムラン教育が始まり，東京音楽大学では現地の国立芸術大学と提携を結んで，毎年 80 名の学生と 50 名の社会人がジャワガムランを学んでいます。古典様式を実習するだけでなく，ガムランを使って作曲し，それを演奏するカリキュラムも導入されました。欧米に比べるとスタートに百年程度の差がありますが，和を重んじる合奏形態が向いているのか，日本人の演奏レベルは高いと評価され，すでに国内に自主的な演奏会や小中学校などで委託公演を行うグループも存在しています。大編成ガムランの演奏を，実際に見たり聴いたりすることができるのです。

2 ジャワガムランについて

ガムランの語源はジャワ語で「打つ・叩く」という意味の Gamel を名詞化したものです。楽器の総称も音楽もガムランといいます。インドネシア

東京音楽大学所蔵のジャワガムラン（フルセット）

には各地に金属や竹製の打楽器アンサンブルがありますが，一般的にガムランと呼ばれているものは金属製の打楽器を中心としたアンサンブルで，インドネシアには主に 3 種類のガムランがあるとされています。バリ島のヒンドゥー教寺院で宗教音楽として演奏されるバリガムラン，ジャワ島西部のスンダ族により貴族のたしなみとして演奏されてきたスンダのガムラン，そしてジャワ島中部の王宮で宮廷音楽として発達したジャワガムランです。これらのガムランを聴き比べると，パワフルでエネルギッシュなバリ，軽やかで心地よいスンダ，神秘的で荘厳なジャワのようにかなり違った印象を受けます。そして，東京音楽大学所蔵の楽器はジャワ島中部の古都スラカルタ，通称ソロのマンクヌガラン Mangukunegaran 王宮ゆかりのセットです。余談ですが，マンクヌガラン王宮は，先述した 1889 年パリ万博にガムラン奏者と舞踊家を派遣した記述の残る王宮です。

さて，楽器の写真を見ると，正面だけでなく横向きの楽器があります。ジャワガムランにはふたつの音階があり，ひとりの奏者に対して楽器は音階ごとに 2 台ずつ配置されます。旋法ごとに細分化されて 3 台使う楽器もあります。演奏者は床に座り，曲の音階や旋法によって前を向いたり，横を向いたりして演奏します。フルセットのガムランは，ふたつの音階のセットが組み合わされたものであり，これを音階ごとに分ければ半分の楽器台数で演奏が成立するのです。日本で音楽ホールに運んで演奏するような場合は，どちらかひとつの音階のセットを使ってプログラムを構成することが多いです。また，ガムランの古典的な演奏法は各楽器に役割があり，舞台の広さや予算に応じて，似た役割を持つ楽器を割愛して編成を多少小さくすることができます。それから，東京音楽大学のフルセットを運ぶためには 4 トンロング，ハーフセットを運ぶ場合には 2 トンロングのトラックが必要です。コンサート企画の際には運搬費用の予算確保や，それらの車が施設の搬入口前の道路に侵入できるかどうか，また駐車しておく場所なども確認する必要があります。最近は出張演奏に適した，組み立て式の台を用いたセットもあり，ワンボックスカーで運ぶことのできる楽器や，宅配だけで運ぶことのできる簡素で軽い楽器も登場しています。

次に音についてですが，ガムランの音律は西洋のドレミと違うので，音程を変えられない楽器と合奏するには多少不便です。また，全ての音がセットごとに少しずつ違います。これは楽器を注文した人の好みや，楽器を製作する職人の勘どころで基音の高さや音同士の幅が決まるという独特の事情によります。ガムラン以外の楽器やパートとともに五線譜で新しい作品を創作する場合，また和声的な響きをイメージして作曲する場合には，音律の参考にした楽器で演奏する必要があります。別の楽器を使用すると，音が合わないとか，作曲者が想定していたハーモニーにならないなどの問題が生じる可能性があり，注意が必要です。

ジャワガムランの演奏のしくみについては，まず，ジャワガムランは繰り返しの音楽です。古典様式の楽曲には段落や拍数の定型があり，日本ではこれを形式と呼んでいます。例えば 4 段落で全 32 拍の形式の曲はたくさんあり，その 32 拍を繰り返して演奏します。数分で演奏できますが，途中でテンポを何倍にも変化させたり，さまざまなアレンジを加えたり，別のブロックに移行したり，別の曲を繋げたりして，曲想豊かに長い時間演奏を楽しむこともできます。曲の始まりから終わりまで，全てのアレンジが音による合図で成り立つようにできていて，ガムラン古典楽曲の演奏経験がある作曲者や，ガムラン独特のルールに興味のある作曲者による作品には，それらの合図やルールを取り入れて融合させた部分がよく見られます。

3 伝統と創作の境が曖昧な創作事情

上記のように，ジャワガムランは一期一会の演奏と言われ，同じ曲であっても都度違う演奏にな

ります。伝統的な古典曲の演奏に創作されたアレンジが組み込まれることもよくあります。また，前述の形式に則って作られた新しい作品は，聴けば古典曲とほぼ変わりません。筆者はよく小中学校の芸術鑑賞教室で演奏するのですが，ガムランの音はドレミではなく数字で表すものだと解説したうえで，8つの音があれば演奏できる小規模な形式を用いて，数人の生徒さんに好きな数字をひとつずつ言ってもらいその場で曲を作って，古典のルールで演奏する企画が人気です。伝統と創作の境目が曖昧であるからこその楽しみ方です。

また王宮様式のガムランは，長い間王宮の中だけで演奏されていましたが，第二次世界大戦後に大きな変化が訪れました。インドネシアが共和国として独立した際に庶民に開かれたのです。子供のための唱歌や，相互扶助を奨励する歌など，ガムランを使用する新たな作品がたくさん作られて，ラジオで放送されるようになりました。カセットテープの普及によって，それら庶民向けの作品は更に定着していきます。ガムランを伴奏に用いて厄除けの儀式として上演されていた，王宮様式の影絵芝居ワヤン・クリ Wayang Kulit も，一般向けにアレンジされて娯楽色が強くなりました。この芸能のリーダーは人形遣いで，歌い語りながらガムランの統率を取り，人形を遣うのですが，優秀なリーダーは新しい曲を作曲し，古典曲の歌の部分を新しい歌詞や楽しいメロディーに作り変えて上演時に使うなど，王宮様式の枠を超えた斬新な展開で上演しました。この傾向は現在も続いています。またガムランが伴奏するジャワ舞踊も，王宮の儀式時しか上演できない舞踊の，エッセンスを取り入れた練習用の作品や，ストーリー性のある舞踊，史実や伝説の人物を題材にした舞踊，子供向けの舞踊など，さまざまなジャンルの舞踊が著名な宮廷舞踊家等によって次々に創作されました。人物像や場面に合わせて，時に書き下ろされた曲を用いてガムランが伴奏を繰り広げます。市販されたカセットテープは舞踊の練習用に広く普及し，今でも CD に焼き直されて販売され，人々の間で親しまれています。

このように，現地では戦後に多くの新しい作品が生まれました。わかりやすい歌詞と明快なメロディーにより庶民の人気を獲得してスタンダードとなった作品は，たとえ王宮の古典曲のパロディー的な替え歌であっても伝統作品として扱われ，国立芸術大学の課題曲になっています。また，戦後に創作された宮廷舞踊家による作品や，その後政府の芸術振興活動によって大学等で作られた作品および伴奏曲も，現在の人々の間では古典的な伝統作品と認識され，国立芸術大学舞踊科の課題になっています。

4 ジャワガムランの創作事例

現地の芸術家による戦後の創作

(1) 宮廷舞踊家ガリマン S.Ngaliman による創作舞踊作品「カロンセ Karonsih」：男女の愛を描いた作品で，ストーリー仕立てになっており，伴奏は場面ごとに古典曲が選ばれアレンジされて，それらを繋げて演奏されます。曲の一部分のみを使うなどの特別なアレンジも施されています。この作品の初収録時に太鼓を叩いていた筆者の師匠は，その場で決まっていく新しい舞踊の動きに合わせて，半ば即興で太鼓のリズムを繰り出したと話していました。

(2) 国立芸術大学教官スボノ Subono 氏による試験課題演目としての創作舞踊作品「ジュンタユ Jentayu」：聖なる鳥ガルーダの飛ぶ様を表現した

創作舞踊作品「ジュンタユ」上演風景

男性荒型舞踊作品で，跳躍など比較的新しい振付が見られます。使用楽曲は伝統的な理論に基づきスボノ氏が作詞，作曲したものです。

海外の作曲家による創作

(1) ルー・ハリソン Low Harison 作曲「ピアノとジャワガムランのための協奏曲」：ピアノをガムラン音律に調律して使用します。作曲者はアメリカ人で，ジャワで伝統的なガムラン奏法を習得しており，ガムラン演奏者は本来のジャワガムランの奏法で演奏します。公演の際には，施設のピアノを特殊な調律にする許可を得る必要があります。

(2) シンタ・ウルール Sinta Wullur 作曲「ラーマーヤナ・オペラ Ramayana Opera」：作曲者はインドネシア系オランダ人で，この作品では西洋音階にあらかじめ調律した特別な楽器を使用しています。このような楽器はまだ日本にありませんので，公演の際は楽器をお借りしてオランダから輸送しなければなりません。また，この作品でガムランは西洋の打楽器のように使用されており，演奏者はジャワガムランの素養がなくても演奏できます。

日本の作曲家・演奏家による創作

(1) 日本在住インドネシア人芸術家スミヤント Sumiyanto 氏によるワヤン・クリ作品「炎」の冒頭部分：伝統的なストーリーを，主に伝統的なガムランの伴奏手法で上演する作品ですが，本来の様式では静かに始まる冒頭の部分に，オリジナルの劇的なパッセージ風演奏を取り入れ，悪役の登場人物が独り言を言う場面から始まります。ワヤン・クリの上演に際しては，大型スクリーンのセットや影絵人形，その他備品の運搬も必要になります。

(2) 作曲家・ガムラン演奏家である小出稚子氏によるガムランとソプラノ・サキソフォンのための作品ウミウシ」：サキソフォンの音程がはっきりしない特殊奏法を取り入れたり，サキソフォン演奏家の巧みな技術で音律をガムランに近づけることにより，音のずれを感じさせない工夫がされています。作曲者はジャワガムランを習得しており，曲中ジャワガムランの伝統的な合図やルールを多用しつつ現代的な作品に仕上げています。

(3) 東京のガムラングループ・ランバンサリによる，リラクゼーションのための作品「ガムラン森林浴」：これは筆者の企画で上演されたものです。音楽ホールの許可を得て，観客に森林のアロマオイルを含ませた布を配布し，録音された自然音とともに1日の森の様子をイメージしてガムラン演奏を行いました。観客がリラックスした時間を過ごすため，つまり演奏を聴かせる以外の目的で上演された創作例として取り上げました。使用した曲は全て古典曲で，雷や虫の声など自然音を流すスピーカーの位置，音量に注意しました。

ご紹介しました創作事例7作品については，2020年にアートマネジメント講座の基礎講座としてオンラインで講義を行った際に，映像をお見せしました。興味のある方がいらっしゃいましたら，どうぞ本学の民族音楽研究所までご連絡ください。このほか，映画音楽としての作品や，ガムランの楽器を使わずガムラン的なものを表現した作品など，本国を含む世界中でさまざまな創作作品が生まれています。また，東京音楽大学で2020年に開講されたアートマネジメント講座では，浄瑠璃とジャワガムランを融合させた舞台作品が講座生によって創作されました。異なる芸能をただ合わせるのではなく，それぞれの本質を損ねないよう大変注意深く創作が行われて，きめ細かく味わい深い作品が出来上がりました。

（樋口文子（なみ））